

会 議 録	
会議名	令和2年度第4回在宅医療・介護連携推進協議会 広報啓発部会
日 時	令和3年1月19日(火) 13時30分～14時30分
会 場	グーグルミートWEB会議
参加者	<p>【部会長】吉寄 太朗(吉崎歯科医院)</p> <p>【委 員】吉井 暁(采女の里デイサービス)、柴田 奈月(地域包括支援センターしんわ)</p> <p>【サポートセンター/医師会事務局】藤井なほ美、川島幸道</p> <p>【市事務局】八巻絢子</p> <p>【欠席】増子 未知可(みさと健和病院)、丸山 奈穂子(みさと南訪問看護ステーション居宅介護支援事業所) (敬称略)</p>
検討課題	<p>1. 今年度の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営について ・冊子制作について <p>2. 次年度の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の方向性 ・三郷市在宅医療・介護連携に関するアンケートなどを参考に次年度のテーマ、課題の提案、決定
内 容	<p>1. 今年度の振り返り</p> <p><良かった点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の予算を上回ってしまったが、研修部会が予算額を使い切らなかったため、担当理事承認のもと、印刷部数を使用可能な予算内で増やして作ることができた。 ・冊子の制作にはお金がかかる。今回、委員のご協力のもと、各自データ作成、また、イラストとデータまとめ作成を吉寄先生にして頂いたため、この金額でできた。 ・コロナの影響で講演会等、行いづらい中、絵本風冊子を作れて良かった。 ・内容を分かりやすくして無駄を省く、文字の大きさに気を付けるなど、議会で検討していたことが反映されていて、吉寄絢子様イラストが可愛く、冊子に優しさが加わっている。 <p>(柴田) 包括の職員から好評で色々な人に手に取って貰いたい。</p> <p>(吉井) 家庭的で親しみやすい、利用者さんにも見て貰ったが、喜ん</p>

で見て貰えた。

<反省点>

- ・吉寄先生にまとめをお願いしてしまい、負担をかけ過ぎた
- ・初めての冊子づくり編集で気付いたこと（パワーポイントデータを2度、印刷用データ変換しなくてはならず、どうしても画像劣化、正しい色味がでなくなってしまう。これが仕様なのでしかたないが、特に背景色はモワレがおきてしまう。）

⇒今回、モワレを極力抑えるために画像背景の書き直し、画像文字の書き直しを行いました。今後、もし作る時はイラストの背景は白、文字の画像化は避けるようにした方が良いかもしれません。

文字についても、使えない字体がある。

- ・無断転載禁止と載せればよかった。

(柴田) 時間を割いてもっと役割分担できたらと思いました。今度やるときは作成の過程を念密に計画立ててやれればと思います。

(吉井) 先生の負担と、自分でももっとやれることはなかったのかなと思います。ただ、コロナの中でこれだけの事が出来たことはすごいと思います。

(八巻) 3つのストーリーがあったので、もっと役割分担できたかなと思います。MCSでもっとお互いの意見のやりとりが出来たら良かったです。

2. 次年度の方針

① 次年度の方向性と存続についての意見

(吉寄) コロナのこともあり、来年の見通しが立たない。人を集めて何かすることやWEBセミナーも難しい。今作ったものを掘り下げるとか新しいもので発刊物にするとかでしょうか？

⇒来年の見通しが立たず、新しいことをするという事が難しいという事もあり、次年度も今年度と同じやり方で進めていく。

② 新年度の部会委員の選出は年度内に推薦依頼を通知する。例年通りの方法で行う。

③ 在宅医療介護連携協議会で話し合い、今後どのように行っていくか決定するため、次年度のことは未定ではあるが、次年度も同じように行っていくことと想定して、広報啓発部会の方向性について話し合っておきたい。

- ・予算を考えると講演等なら、1回位かもしれない。

(WEB開催としてZoomオペレータを頼むと13万位)

- ・WEB開催の可能性あり、市民向けでも可能か。
- ・去年のアンケートではお金、看取り、相談が興味あることだった。

(増子) ※事前ご意見により転記

会議については、参加できませんが、次年度のメンバー・開催方法は検討が必要と思います。コロナ禍での会議の持ち方は検討が必要ですね。WEBでの開催でも良いと思いますが、検討するには、なかなか難しい印象も受けます。次年度での学習会も行っていくことで幅広く市民の方に啓発ができるとは思いますが、それこそWEB開催では年齢層が高いかたには難しいと思います。短時間で少人数など、地区ごとなど民生委員などに協力を依頼しながら、開催する方法もありかと思います。

(八巻) 現在の状況としてコロナの緊急事態宣言により、民生委員も地区会、個別訪問など活動されていなく、ご協力を仰ぐことが難しいです。今後の見通しが立たなく、地域のご協力を得ることも難しいのかなと思います。

(柴田) 確かに何かを啓発したり、発信したりするツールが限られている中でそれを使える年齢層が限られるというのが発信する側の課題だと思います。特にACP、介護が知りたい年齢層は高くなるので発信するツールや媒体を考えるのであれば、今回作った冊子の内容の段階として、ACPの何か、例えば発刊物等考えられるのかなと思います。

(吉井) 今、コロナの不安の中、自分の周りで求められているものは安心に繋がる方法であると感じています。高齢であるから出来ないのではなく、繋がりを求めてWEBでの取っ掛かりが出来ればいいのかなと思います。

(藤井) 1年間の計画を立てるのが厳しい状況かなと思います。ACPに関して以前も市民向け課題として出ていたと思います。発刊物を出すにしろ、ACPに関しては1年でなく、長い目で見ていかなければならない課題だと思います。

(八巻) 今年、11月30日(いい看取りの日)前後3週間位、図書館の方で在宅医療・介護・看取りに関して啓発コーナーを設けて貰いました。その時、以前医師会で作ったエンディングノートを置かせて頂いたところ大変、好評でした。市民にとって関心が高いことなんだなと感じました。ただ、社会福祉協議会でもエンディングノート(200円)を作っていて、書き方講座も行っているので、

	<p>改めてこの部会でもやる必要もないかなと思います。また違う視点でやっていくのがいいのではないかなと思います。</p> <p>⇒ACP（案）をテーマにして市民向け配布物、発刊物を作る。</p> <p>市民の繋がり、WEB を使うには等も検討</p> <p>6) 配布先、配布方法</p> <p>3000部 200冊×15箱</p> <p>・コロナの影響で何処も配布物を置いて、自由に持って行って頂けない状況。欲しい方に手渡しなら可能かもしれない。</p> <p>(八巻) こういったものに縁のない方に知って貰いたいと思うんですが、公共施設も利用中止ですので、自由配布として手にとっては貰えないです。相談先から渡してもらうという事で相談窓口（病院のMSW、包括、市の介護保険担当等）から窓口に来てもらった方に個別に渡してもらうのはいかがでしょうか？</p> <p>(柴田) 相談先にストックを置いておいて訪問時、来所した方等配布することはいいと思います。</p> <p>(吉井) デイサービスでも飛び込みの相談があり、参考資料としても助かる。配布も少しなら可能です。</p> <p>(八巻) 広報啓発としてこういったものを取り組んだことを市の事業所にも知って頂きたい。閲覧用として医療機関、薬局、介護施設に配っていったらいいと思います。</p> <p>(事務局) 三郷市と三郷市医師会事務局で相談して、実際の配布方法と配布先、部数の検討をして決定させて下さい</p>
結論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次年度の方針：次年度も今年度と同じやり方で進めていく。 2. 新年度の部会委員の選出は年度内に推薦依頼を通知する。例年通りの方法で行う。 3. ACP（案）をテーマにして市民向け配布物、発刊物を作る。 参加者の反応などに照らし合わせて、今後のテーマ選定、方向性を決定していく。 4. 今年度の冊子配布：市と医師会事務局で相談し、配布方法、配布先、部数の詳細を決めて実行していく。
次回開催日時	令和3年4月 日（ ）13：30～ 三郷市医師会館大会議室

次回未定（4月頃）